TSK
カナンの園
146

根っこにあるものは

一般社団法人みつ蛍代表理事・明治学院大学名誉教授
中野 敏子

久々に訪れた奥中山高原は、まだまだスノーボードを楽しむ人たちの恵みの雪が積もっていました。振り返ると柔らかい日差しを浴びて、ぽっかりと春がそこまできている奥中山の町並みが浮かんで見えました。懐かしい景色です。

3月末に講師として招かれて参加したカナンの園の年度末研修会では、半世紀を超える「カナンの園の働き」を振り返り、気付いたことなどを皆さんに聴いていただきました。そこで改めて確認できたことは柱となる「具体的な実践を導く理念」の重要さです。

研修会では、各々の事業所から「カナンの園の働き」にどのように関わっているか報告がありました。「カナンの園の働き」を人生に取り入れた「利用者」の方々へのリスペクト、そして、ただ既存の理念を追い掛けるのではなく、時代と共に変化する状況を考慮して「実践の変革」に挑む姿も一貫して伝わってきました。これらはカナンの園が大切にしてきたものといえます。

カナンの園の年度末研修会での講演。

カナンの園が支援の方針を大きく変えようとしていた二十数年前、入職されたばかりの若者が膝を突き合わせて熱く語り合う中に、私も混ぜていただいたことを思い出しました。今、その方々は道を拓く先達として歩みを進めておられます。「カナンの園の働き」の道を開拓する歩みが、こうして引き継がれていることを実感し、四半世紀ほどの時を経て、この流れに再び出合う機会を与えていただいたことに感謝します。

令和8年には「地域移行等意向確認等の義務化」が成されるとのことです。地域移行とは「障がい者の一人ひとりが市民として、自ら選んだ地域や住まいで安心して自分らしい暮らしを実現すること」、その目的は「個々のニーズや希望に応じた生活の質の向上」だそうです。マニュアルとやらが増える昨今ですが、根っこに何が必要かを見定めることなく上辺のノウハウだけが複雑になり、その人の生活の質がどれだけ上がるのか心配になります。もちろん、カナンの園では、その根っこに何が必要かは了解済みのことでしょう。

奥中山には地理的、人的資源などの課題があると伺いますが、人口密集地では決して取り組めない人々の暮らし、そしてそれを支える「人手」があるはずです。「人手」が意味していることを改めて見直してみると何かが見えるかもしれません。

カナンの園を、いや、奥中山を訪問するといつも「ワクワクする発見」があります。まだまだ「カナンの園の働き」の行く先は面白そうですね。

No.146
発行日／2025年7月15日
編集／社会福祉法人カナンの園
〒028-5133 岩手県二戸郡一戸町
中山字大塚4番地7
TEL 0195（36）1026
FAX 0195（36）1027

ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net

専攻科棟での新たな学び

２０２５年3月、公益財団法人ＪＫＡ様の助成を受け、新専攻科棟が完成しました。専攻科は１９９８年に設置されましたが、今回の建て替えに向けて、どのような学校生活をつくっていきたいか、生徒たちと一緒に夢や希望を語り合ってきました。完成した室内は壁で仕切られておらず、大きな一つの空間で、カフェのような雰囲気を持ち、姫神山、岩手山、西岳を一望することができます。実際に過ごしてみての感想を専攻科生に紹介してもらいました。

専攻科の皆さんと。

カフェのような空間で。

司　会　岩﨑蓮（専攻科２年生）
出席者　笹原祐平・中村夢月花（専攻科２年生）
　　伊藤瑠喜・山本佳葵（専攻科１年生）

岩﨑（以下司会）　新専攻科棟で過ごしてみて１カ月たちましたが感想を聞かせてください。

山本　建物の中に仕切りがないことに最初は驚きましたが、仕切りがない方が快適でいいです。

笹原　観葉植物、テーブル、イスなどのインテリアがオシャレなのと、窓が広くて天気の良い日は教室内が明るくて良いです。

司会　２学年一緒の空間ですが居心地はどうですか。

伊藤　にぎやかで、お互い行き来しやすい空間がいいです。

司会　１年生の声が響いていて元気で良いですね。お気に入りの場所、空間はありますか。

伊藤　教室から景色を眺めることが好きです。

中村　教室のすぐ外にバルコニーがあり、天気が良い日は外に出ています。

笹原　いつも仕切りがない空間にいるので、トイレの空間はきれいだし、落ち着きます。

司会　この空間で、これからどんなことを学びたいですか。

伊藤　働くための学びや芸術活動を行っていきたいです。

山本　広い空間を生かして巨大オセロなんかもいいですね。

中村　巨大人生ゲームも楽しそう。これからも、仲良く、にぎやかな専攻科になってほしいです。

笹原　ゼミでテーマ研修したものを発表し合うことや、芸術作品を展示してギャラリートークなどもしてみたいですね。

中村　分からないことがあったら、先輩に聞いてください。一緒に頑張っていきましょう。

笹原　どのようなことをやったら楽しめるのか、みんなで一緒に活動を考えていきたいです。スマートフォンの使い方やルールなども、今の三愛学舎に合ったものに変えていけばいいと思います。

司会　１年生のみなさん、頼りにしています。自分のペースで頑張っていきましょう。皆さん、ありがとうございました。

仕事とスポーツの両立

昨年、卒業生の福岡健治さん（２０１３年度卒）を三愛学舎に迎えて全校生徒の前でお話ししてもらいました。三愛学舎の先生や奥中山学園の職員に迷惑を掛けたこともあったけど、今は感謝していること、つらいことがあってもやり続けることの大切さなどの話に、後輩たちも熱心に耳を傾け聴いていました。三愛学舎在学時に岩手県のＩＤサッカー（※）チームが結成され、メンバーに選ばれて以来約15年。今も中心選手として活躍しているようです。今回改めてインタビューしました（聞き手岩崎崇副校長）。

岩崎　よろしくお願いします。まずは現在の仕事内容について教えてください。

福岡　株式会社一歩の就労継続支援Ａ型事業で施設外就労をしています。水曜日から日曜日、10時から16時まで、滝沢市大釜の土日ジャンボ市で精肉の仕事をしています。肉に味付けをして店内に並べたり、商品の品出しをしたりしています。

岩崎　仕事で大変なことはありますか。

福岡　土曜日はお客さんが多くてかなり忙しいです。タイムサービスがあると何度も味付け肉を作り、並べています。次々とやることがあるので対応しなければなりませんが、大変とは思っていません。

岩崎　休みの日は何をしていますか。

福岡　家で家族との時間を大切にしていて、ゆっくり過ごしています。

岩崎　今も続けているサッカー、仕事もあり、家族もいて、大変ではないですか。

福岡　サッカーをしたい気持ちがあっても、土、日の仕事が忙しいので、練習にはあまり参加できていません。試合があるときは有給休暇を申請し参加しています。現在はＩＤサッカーチームだけでなく、仕事をした後、一般のチームでバスケットボールやフットサルをして汗を流しています。体を動かすと、リフレッシュできます。

岩崎　この前試合を見に行きましたが、誰よりも声を出し、ずっとボールを追い掛け走り回り、ゴールポストにぶつかってもすぐ立ち上がっていましたね。

福岡　前よりは走れなくなりました。ゴールポストにぶつかったのは本当に痛かったです。でも実は、あの日はサッカーの試合の後、フットサルの練習もあったので、夕方に練習に行きました。

岩崎　すごいバイタリティーですね。最後にこれからの目標、夢はありますか。

福岡　仕事が第一で、まずはお金をためたいです。今は暮らしを継続することが大事だと考えるようになりました。小学生の娘がいるので頑張って働いて、やりたいことをさせてあげたいです。

※福岡健治さんは、本人の努力が認められ、７月１日より一般企業に採用され、元気に働いています。

※ＩＤサッカー：知的障がいがある人たちのサッカー。

一蹴入魂！

味付け肉を手際よく並べる姿。

歳時譜

特別な火曜日

奥中山の豊かな自然を感じながら、利用者さんと一緒に散歩をする。それは、私たち、ひつじ工房アドナイ・エレの職員にとっても楽しみな活動の一つです。春には桜を、初夏には鳥たちの元気な声を聞き、秋には赤や黄色に染まった木々を楽しみます。

その季節感をもっとも感じられるのが、皆さんが喜んで足を運ぶ奥中山教会へ出掛ける時間です。長尾邦弘牧師・愛子さんご夫妻から「おはようございます。よい天気だね」「元気だった？」と優しいお声掛けをいただき、利用者さんのあふれる笑顔を見ると私たちもとてもうれしくなります。

その中でも火曜日は特別な日です。利用者さんと一緒に教会の中に入り、好きな本を借りることができます。その名も「こひつじ文庫」。羊を飼育し、羊毛製品を日々作っている私たちの工房のためにあるような名前です。それぞれに気に入った本を手に取り、今日はどんな絵本を借りようかなとしげしげと見つめ、たくさんの色とりどりの絵本から3冊を真剣な表情で選びます。

サプライズで愛子さんがその場で読み聞かせをしてくださることもあります。借りてきた絵本は、職員が読み聞かせをします。利用者さんからは「次これ読んで」とせかされますが、楽しい気持ちが沸き上がってくるのを止められないようです。

長尾牧師（左）のことが大好きな荒谷礼子さん。

アドナイ・エレの利用者さんは高齢化に伴い運動機能の維持が重要です。そのための「お散歩」です。ただ「歩きましょう」では、歩きたいなという気持ちにはならないこともあります。そんなときにも「こひつじ文庫」の言葉を出すと、魔法のように笑顔で歩いてもらえます。季節を感じながら、奥中山教会に散歩をすることが私たちの大切な時間です。

結びになりますが、私たちの工房は製品作りや読み聞かせなど地域の方々に開かれた工房です。もの作りに興味のある方はアドナイ・エレに遊びに来てください。

（小さき群の里支援員　石木麻優）

「共に生きる」を学ぶ
―インターンシップを通して―

地元の大学を卒業する間近の1月14日から3月1日までの約1カ月半、カナンの園でインターンシップをさせていただきました。卒業後は一般企業への就職が決まっていたのですが、将来は福祉に関わる仕事がしたいと願っていて、学生時代に現場での体験をしてみたい、という思いからでした。

これだけの期間、地元を離れて知らない方々ばかりの環境に飛び込むのはとても勇気が要りました。しかし、カナンの園と、具体的な支援をしてくださったウェスレー財団の方々の支えもあって無事に、そしてとても充実した学び多い機会となりました。

カナンの園では、どの現場でも温かさがあり、助け合い、細やかな気配りを大切にする姿勢が根付いていることを感じました。相手のことを思い、具体的に必要としている手助けや配慮を行うことが本当の意味で寄り添うことだと学びました。

そして、私自身がいろいろな方々と接する中で優しい気持ちになっていくのを感じ、障がいがあるといわれる方々、そしてそこで働く職員の皆さんには優しい気持ちを引き出す力がある、と気付かされたのは大きな発見でした。このような機会を与えてくださった皆さまに深く感謝いたします。

（山梨県　福濱莉夢）

節分行事にも参加させてもらいました。

ことばひろい　第45回

「ごめんなさい」と言わせてしまった

奥中山学園主任
小林康忠

福祉に関わったことがほとんどない私がカナンの園で働き始めたのは十数年前、盛岡のヒソプ工房からでした。

当時24歳で他の人より少し遅く就職した私は、どこか気持ちが焦っており、絶対にうまくやりたい、失敗してはいけないと思っていました。初めての就職、初めての福祉の仕事、初めての知的障がいがある方々との関わり、その全てが新鮮であった半面、分からないこと、うまくできないことだらけでした。

私が最初に担当したのは2名で、そのうちの1人Mさんは私と同年代の女性でした。Mさんはすてきな笑顔を持ち、楽しい活動や特別な活動が好きな方です。しかし、楽しみにしているだろう活動を前にしても、その場から動けなくなることがよくありました。当時の私にはどう考えても理由が分からず、でも活動には参加してほしくていろいろな手段を考えて活動へ促しましたが、どうしてもスムーズにはいきませんでした。

そんな日々が半年ほど経過した頃、Mさんと改めて2人で話し合う時間が持てました。責めたつもりは全くなかったのですが、やりとりの中で彼女は泣きながら「ごめんなさい」と言いました。私はその瞬間に「あぁ、ごめんなさいと言わせてしまった」と思ったのです。

私は彼女の考えや思いを聴かない、感じないままに関わってしまっていたのでした。Mさんの動きたくても動けない苦しさや思いに寄り添うべきなのに、私はそれをしていなかったのです。それを気付かせてくれたMさんの一言から、私はその後、目の前にいる方のことをより真剣に考え、知ろうと心掛けるようになりました。

次の年、私はMさんと共に別の作業課へ移り、より多くの利用者さんと接する中で、言葉でのコミュニケーションが難しい方々とも多く関わるようになりました。こちらが気に掛けていれば、お一人お一人は表情、動作、声などでさまざまなことを豊かに伝えてくれることを、少しずつ理解できるようになってきました。もちろん内容を理解できたとしても、それを受け止められるかどうか、そもそも内容が全く分からないこともあることも経験してきました。そして、大切なのは皆さんの考えや思い、訴えについて聴き取ろう、考え続けようと、私自身がアンテナを張り続けることだと思うようになりました。

その後、Mさんは移った作業課でも作業ができたりできなかったりすることが続き、また私たちも気持ちに応えることができない日々が続きました。

それでも数年後、さらに別の作業課に移ったMさんは、自分の机や居場所があり、周りに話ができる仲間がいる中で、作業も頑張っている姿があり、彼女が求めていたものの一つがこのような「場」なのだと気付かされました。

「ことば」は互いの気持ちや考えを伝え合うことに役立ちます。しかし、その使い方は難しく、表現通りに伝わり、互いに理解し合えるとは限りません。特に、私たちが「支援」という形で関わる方々の中には、伝わらない、分かってもらえないと感じる場面も少なくないはずです。そんなとき、ご本人が受ける心の負担は想像以上に大きなこともあるでしょう。

だからこそ、常に相手に興味を持ち、相手を知ろうと努め、私たち自身のことも知っていただこうとする関係を丁寧に築き、互いに想像し得る「ことば」を紡いでいくことが大切なのだと感じています。

Mさんと出会って16年がたちました。私は数年前に奥中山学園に異動したのですが、Mさんとはイベントなどで顔を合わせると、お互い笑顔で話す間柄です。

何年たっても未熟なままの私ですが、人生の中で、人との関わりの中で、とても大事なことを教えてくれたMさん、そして私と関わり、付き合ってくれている皆さんと出会えたことに本当に感謝しています。

法人の運営

1――運営方針

《理念体系》

２０２５年度も引き続き、創立以来掲げてきた「基本理念」「三つの願い」「運動体としての三本の柱」を一体の理念体系として運営を推進致します〔ＨＰをご覧ください〕。

第８次将来像計画に基づき、利用者への安心・安全の提供、職員も利用者も希望の持てる環境づくりに取り組みます。その一つとして、地域資源の活用、新しい拠点整備を目的とした沼宮内センターを設置し放課後等デイサービスを開始します。また、思い切った人材確保対策等を実行します。

《一体的運営》

理事会、評議員会をはじめ、保護者を中心とした運営協議会等と、人材不足や経営状況、事業所運営状況、福祉業界等の現状を共有・理解していただきながら一体となって運営していく体制を目指します。

《人材確保》

大学や関係団体のインターンシップの積極的な受け入れ、地元学校等との交流イベントを通して将来を見据え新たな人材の確保に努めます。併せて、外国籍人材受け入れによる業務の見直し、文化の違いからの新しい気付きや職場の活性化等、人材確保以上の効果にも期待して取り組みます。

《健全経営》

経営状況を分析し、その情報を共有すると共に、標準的な経営指標に基づく健全経営を目指します。

2――重点課題への取り組み（抜粋）

（1）人材確保・定着・育成対策の実施

・高校、専門校、大学などへの広報活動を積極的に展開します。

・通年採用を基本に、新卒者の他に中高齢者、登録支援団体を通して外国籍人材の確保にも取り組みます。

・定年延長に向けての検討、職員の住環境整備や子育て世代の職員が安心して働けるよう福利厚生の改善策を実施し、職員の定着と確保を図ります。

（2）利用者支援の充実

・感染症対策など事業所間の連携強化と研修による職員の資質向上を図り、併せて生活環境、就労環境の改善など、利用者個々に応じた支援の充実を図ります。

（3）施設整備

・沼宮内センターを開設し、放課後等ディサービス事業を開始します。

・耐力度調査結果を基に建物、設備の改修を行います。

・医療的支援や高齢化に対応したグループホームなどの開設に向け、事業計画策定等具体的な検討を行います。

（4）法人組織の強化と法令遵守対策の実施

・役員等体制の充実、実員増を図るためその人材確保に努めます。

・人事委員会、総務会等各委員会を継続開催し、法人内の情報交換を密にし連携強化を図ります。

・コンプライアンス委員会を法令遵守の中核組織として位置付け、その運営を徹底します。

社会福祉法人カナンの園役員

理事長　齊藤芳弘

常務理事　花松行雄

理事　阿部孝司　小田島晃子　川村秀文　越山哲也　坂水かよ　眞山重博　恒川かおり　中野信男　名古屋恒彦　利府　充

監事　秋山信愛　大信田康統　大原　敬

評議員　佐々木恵　佐藤研司　佐藤慶之　澤谷常清　高橋信蔵　滝川佐波子

社会福祉法人カナンの園運営体制

【法人事務局】　花松行雄（事務局長）　笹森雅弘（事務局次長）

【支援部】　阿部孝司（統括部長）

●奥中山第１支援部　浅沼俊一（部長）

・奥中山学園　向井由祈（園長）　尾崎　努（副園長）

・生活支援センター　浅沼俊一（センター長）　猪又　平（副センター長）　浅沼典宜

・カナン牧場　釜石　登（所長）　觸澤賢人（副所長）

●奥中山第２支援部　鈴木直人（部長）

・ののさわ　鈴木直人（所長）　南舘晋也（副所長）

・小さき群の里　服部　勉（所長）　京野克彦（副所長）

・シャローム　阿部孝司（所長）　成田知道（副所長）

・ウィズ　阿部孝司（所長）　安ヶ平淳一（副所長）

●盛岡支援部　髙橋正彦（部長）

・ヒソプ工房　髙橋正彦（所長）　古川裕美（副所長）

・となんカナン　刈屋百恵（所長）

学校法人カナン学園役員

理事長　澤谷常清

理事　及川忠人　小川博敬　熊本葉一　齊藤芳弘　嶋野重行　箱﨑浩二

監事　秋山信愛　細川倫史

評議員　姉帯麻帆子　岩崎　崇　上山正幸　大欠清身　大志田勝宏　小原暁子　佐々木全　上路智大　長尾邦弘　花下浩之　向井由祈　山舘章子

●三愛学舎運営体制　澤谷常清（学校長）　岩崎　崇（副校長）　箱﨑浩二（事務長）

（五十音順、敬称略）

社会福祉法人カナンの園 2024年度 決算報告(単位：円)

＊詳しい内容等は当法人ホームページをご覧ください。

社会福祉事業会計

事務局、奥中山学園、生活支援センター、カナン牧場、ののさわ、シャローム、ヒソプ工房、となんカナンの８拠点区分を合算したものです。

貸借対照表

2025年３月31日現在

資産の部		負債の部	
流動資産	1,010,497,202	流動負債	85,381,465
固定資産（注①）	1,132,178,645	固定負債（注②）	139,755,290
		負債の部合計	225,136,755
		純資産の部	
		基本金	511,975,824
		国庫補助金等特別積立金	296,435,732
		その他の積立金	224,150,538
		次期繰越活動収支差額	884,976,998
		（内、当期活動増減差額）	6,941,337
		純資産の部合計	1,917,539,092
資産の部合計	2,142,675,847	負債・純資産合計	2,142,675,847

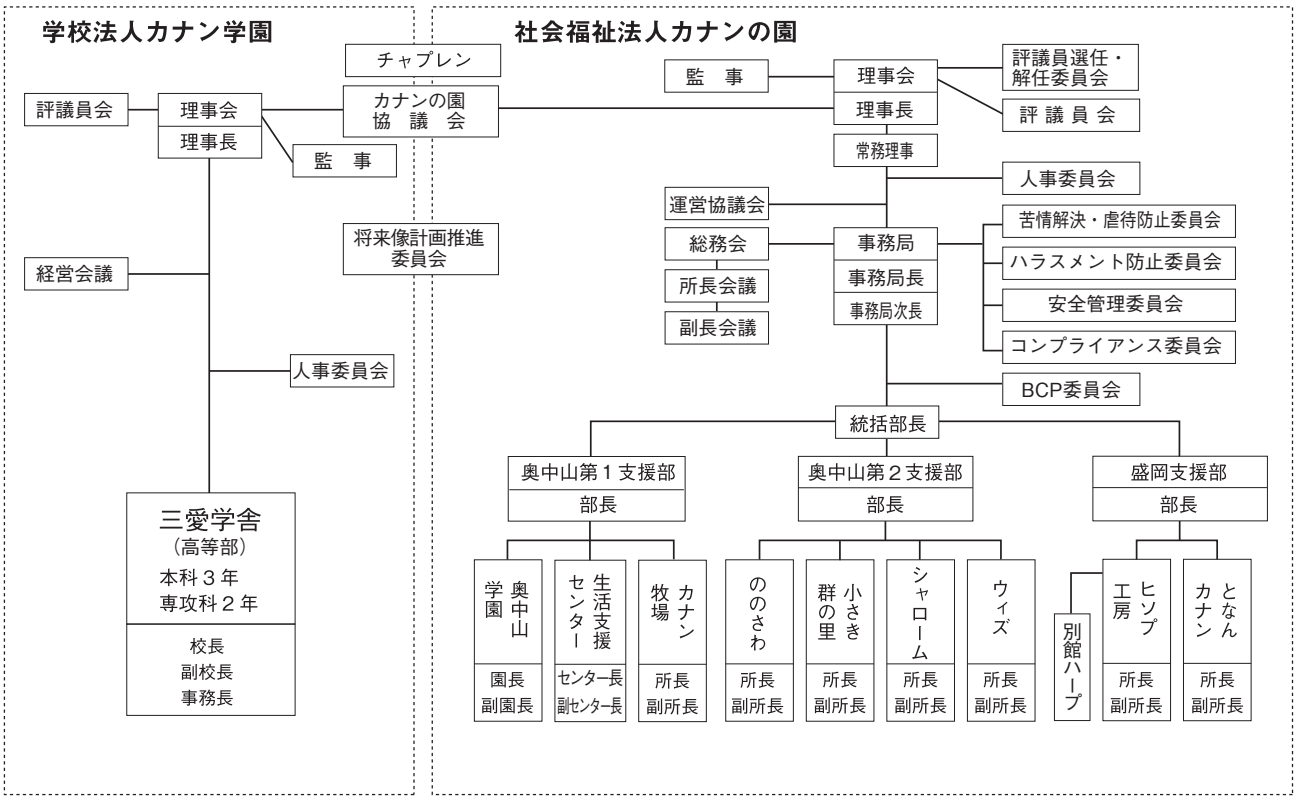
注：
①固定資産額の内訳の内、基本財産は、土地72,446千円、建物673,389千円等です。
②固定負債の内訳は、福祉医療機構等借入金64,777千円、車両リース債務9,393千円、岩手県社協退職引当金65,585千円です。
③サービス事業活動増減の部の収益は、給付費等1,145,328千円、就労支援事業181,576千円、寄附金18,589千円です。費用は、人件費860,103千円、事業費・事務費253,928千円、就労支援事業212,902千円、減価償却費86,147千円です（国庫補助金取崩額、利用者負担軽減額除）。
④サービス活動外増減の部の収益は、障害者雇用調整金、県社協退職運用益等、費用は利用者等外給食費等です。
⑤特別増減の部は、固定資産取得のための施設整備補助金収入です。

事業活動計算書

（2024年４月１日～2025年３月31日）

サービス活動増減の部（注③）	
サービス活動収益計	1,345,493,786
サービス活動費用計	1,383,556,009
サービス活動増減差額	△38,062,223
サービス活動外増減の部（注④）	
サービス活動外収益計	34,157,593
サービス活動外費用計	7,271,454
サービス活動外増減差額	26,886,139
特別増減の部（注⑤）	
特別収益計	27,112,469
特別費用計	8,995,048
特別増減差額	18,117,421
当期活動増減差額	6,941,337
前期繰越活動増減差額	897,035,661
当期末繰越活動増減差額	903,976,998
基本金･その他の積立金取崩額	13,800,000
基本金･その他の積立金積立額	32,800,000
次期繰越活動収支差額	884,976,998

2025年度　カナンの園組織図



編集者　社会福祉法人カナンの園
〒〇二八―五一三三　岩手県二戸郡一戸町中山字大塚四番地七　☎〇一九五―三六―一〇二六

発行所　東北障害者団体定期刊行物協会（略称ＴＳＫ）
〒九八〇―〇八七四　宮城県仙台市青葉区角五郎一丁目一二―六　頒価百円

●――――お知らせ

奥中山と盛岡の中間に位置する岩手町の沼宮内商店街の一角に、この秋、放課後等デイサービスの事業所を開設することにしました。建物の改装の他、事業申請などのさまざまな準備を進めています。

その中で、職員体制をどう準備するか、ということはとても大きなことの一つです。

保育士や教員免許を持つ人はもちろん、資格や経験がなくても子どもたちの成長に関わっていきたい方など、幅広く人材を募集しています。

興味のある方、こんな人がいるよ、とご紹介いただける方、どうぞ下記の法人事務局（担当　笹森）までご連絡ください。

あとがき

機関誌146号をお読みいただきありがとうございました。今回紹介した三愛学舎卒業生の福岡健治さん。「仕事とスポーツの両立」をテーマに、三愛学舎の後輩たちにお話しされたとのこと。現在は就労継続支援A型事業所で施設外就労に励みながら、ご家族の支えの下、大好きなサッカーを楽しんでおられるご様子などを知り、私自身も多くの励ましと学びをいただきました。

個人的なことで恐縮ですが、私も学生時代から続けているソフトテニスを、時折仕事終わりに一戸町総合運動公園のコートで楽しんでいます。プレー後に仲間たちと交わす何気ない会話、そして自宅に戻ってからの一杯のビールもまた、かけがえのないひとときとなっています。

日々の中で「楽しみ」を見い出し、心にハリを持って過ごすことは、誰にとっても大切なことですし、そんな様子に触れることは互いに気持ちのいいものだと思います。この機関誌が、そのきっかけの一つとなるよう、これからもより多くの方に親しまれ、心に届く誌面づくりを目指してまいります。

（ウィズ事業所　畑中哲也）

Scope & Spot

この日は月に一度のリズム教室。タンバリンを手に朗らかな笑顔を浮かべているのは、ヒソプ工房・別館ハーブに所属する川村優子さんです。

普段は仲間から親しみを込めて“あねご”と呼ばれ、みんなを明るく照らす太陽のような存在として慕われる優子さんですが、リズム教室の日はちょっぴりいつもと違う表情を見せてくれます。大好きな童謡を聴き、歌い、奏でる表情からは、日だまりのような暖かさと穏やかさが感じられます。きっと「楽しい」だけではない、昔のことを「懐かしむ」ような時間なのだと思います。

大好きな優子さん、これからもたくさんのステキな笑顔の花を咲かせてくださいね。

●機関誌「カナンの園」では、読者の皆さまからの声もお待ちしております。お読みになってのご意見、ご感想などを事務局までお寄せください。

カナンの園法人事務局

〒028-5133
岩手県二戸郡一戸町中山
字大塚4番地7
TEL 0195（36）1026
FAX 0195（36）1027

ホームページ
http://www.canaan-jp.net/
E-mail/honbu@canaan-jp.net
郵便振替 02330-6-6631

社会福祉法人カナンの園

福祉型障害児入所施設　奥中山学園
☎0195-35-2314　FAX 0195-35-3406

多機能型事業所　ゆいまぁる
☎0195-35-2314　FAX 0195-35-3406

多機能型事業所　小さき群の里
☎0195-35-3080　FAX 0195-35-2780

共同生活援助事業所　ののさわ（グループホーム１～６）
☎0195-35-2232　FAX 0195-35-3405

生活介護事業所　ヒソプ工房
☎019-646-8581　FAX 019-646-8582

共同生活援助事業所　HANA（盛岡地区グループホーム１～５）
☎019-646-8581　FAX 019-646-8582

特定相談支援事業所　らぽーる
☎019-656-6863　FAX 019-656-0553

生活介護事業所　シャローム
☎0195-35-2883　FAX 0195-35-2884

就労継続支援B型事業所　ウィズ
☎0195-36-1120　FAX 0195-36-1121

就労継続支援A型事業所　カナン牧場
☎0195-35-2583　FAX 0195-35-3145

共同生活援助事業所　美空（グループホーム１～10）
☎0195-35-3844　FAX 0195-35-3840

居宅介護事業所　れもん
☎0195-35-3844　FAX 0195-35-3840

障害児相談・特定相談支援事業所 むつび
☎0195-35-3665　FAX 0195-35-3840

多機能型事業所　となんカナン
☎019-681-3004　FAX 019-637-2601

カナン市場（カナンの園商品一括取扱所）
☎019-639-3120　FAX 019-637-2601

学校法人カナン学園

三愛学舎（特別支援学校高等部・知的）
☎0195-35-2231　FAX 0195-35-2781

本誌は環境に配慮した紙を使用しています。